

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数は高止まりしている状況であるが、まん延防止等重点措置の解除に伴い、かなりの人が街に戻ってきている。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・店頭への来客数はまだ戻ってきていないが、ネット経由で宅配を希望する客が増加した。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は苦戦しているが、外商売上は好調で、前年同月と比べ増加した。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置の解除後、来客数が回復している。
	○	百貨店（販売促進）	来客数の動き	・観光客が増加している。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・大容量商品の売上が好調で、単価アップが図れている。
	○	コンビニ（店長）	お客様の様子	・3月に入ってから来客数が回復している。大多数の人は自粛期間が終了したと感じている。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が増加している。
	○	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・当県は新型コロナウイルス新規感染者数が増加傾向にあるものの、客の新型コロナウイルスに対する警戒心が薄れたことや、気候に恵まれたこともあり、売上は良い水準で推移している。
	○	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・年度末決算の影響もあり、販売量、来客数共に増加している。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数がやや落ち着いてきたことに合わせて、少しずつ客足が戻りつつある。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・客がコロナ禍の生活に慣れたこともあり、来客数が増加した。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたことにより、卒業旅行や春休みの旅行など個人の需要が一定程度回復した。
	○	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・まとめ買いをする客が増えており、売上が増加した。
	○	美容室（経営者）	お客様の様子	・前年と比べ、卒業式に参加する客が増加した。
	□	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の適用が全国で解除されてから、僅かに飲食店への納品量が増加したが、大きな状況の変化はない。
	□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・値上げが続いており、客に買いだめの動きがみえる。
	□	スーパー（人事）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、景気は少し上向きになっているが、値上げラッシュや原油高、ウクライナ問題等の不安要素が山積しており、判断がつかない状況である。
	□	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたが、引き続き地域のスーパーマーケットに人が流れてきており、現状維持の状況が続いている。
	□	コンビニ（総務）	来客数の動き	・前年と比べ売上は悪化しているが、全体としては大きな変化はない。
	□	家電量販店（店員）	来客数の動き	・新生活準備で来客数は増加しているが、その他商品の販売が伸びていないため、全体の売上高は変わらない。
	□	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・春の新生活需要は購入点数、購入単価共に少なく節約傾向となっている反面、その他の大型商品については購入単価が上がっている。しかし、来客数の減少が続いており、全体の売上については大きな変化はない。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月の新車受注状況は前年同月を上回る推移であるが、新車登録台数は前年比80%の状況で推移しており、どちらともいえない。

	□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響は余りないが、地政学リスクによる原油価格の高騰や株価の不安定さ、資源価格の高騰による今後の影響を心配している。
	□	旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・まん延防止等重点措置等は解除されたが、客の動きはまだほとんどない。
	□	タクシー運転手	来客数の動き	・当県ではまん延防止等重点措置が解除となり、少しずつ夜の街に人が増えてきたように感じる。しかし、新型コロナウイルス発生前の水準までの回復には程遠い。遍路客の予約も増えているが、キャンセルも一定数あり、どちらともいえない。
	□	通信会社(社員)	販売量の動き	・依然として新型コロナウイルスの情勢も販売量も変わらない状況である。
	□	設計事務所(所長)	お客様の様子	・業種によって景気が回復傾向にある事業者と、そうでない事業者に分かれており、全体としては余り変わっていない。
	▲	商店街(事務局長)	来客数の動き	・政府は感染状況と経済活動との折り合いをつけるべく、まん延防止等重点措置を全面解除したが、新型コロナウイルスオミクロン株による影響は今後もしばらく続くと思う。
	▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で来客数が減少しており厳しい状況が継続している。年度替わりで多少の来店はあるものの、昼間の少人数での来店に限定されている。
	▲	コンビニ(店長)	来客数の動き	・一向に新型コロナウイルス新規感染者数が減少傾向にならないため、来客数が減少しており、売上は前年よりも更に悪化している。
	▲	衣料品専門店(営業責任者)	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の適用が経営に対してマイナスに作用しており、売上は低調に推移した。
	▲	競輪競馬(マネージャー)	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の適用により2か月間の自粛行動が求められてきた結果、娯楽交遊場の客足は大幅に減少し、売上も減少傾向にある。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・まん延防止等重点措置の解除後も利用客は少なく、売上が低調な状況が続いている。
企業 動向 関連 (四国)	◎	*	*	*
	○	食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・外食向け製品の受注が回復基調にある。
	○	木材木製品製造業(営業部長)	受注量や販売量の動き	・材料費の高騰や材料の不足が大きな問題となっており、生産が段取りよく進んでおらず利益が非常ににくい状態となっているが、受注量自体は回復傾向にあり、好調に推移している。
	○	輸送業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・まん延防止等重点措置の解除により、景気が回復傾向にある。
	□	農林水産業(職員)	受注価格や販売価格の動き	・コロナ禍での消費活動が定着したことから、低調な荷動きの状態が続いており、大きな変化はみられない。
	□	一般機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・各国政府の経済対策により景気は回復基調であるものの、地域的ばらつきが大きく、全体として本格的な回復には至っていない。
	□	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・ウクライナ情勢の影響で、電子機器の資源や部品が手に入りづらくなっており、先行きが不透明である。
	□	建設業(経営者)	取引先の様子	・公共事業の発注量、受注量共にやや増加にある。一方、ウクライナ情勢やコロナ禍における行動自粛により、景況感が停滞しているため、先が読めない状況である。
	□	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・依然として受注量が不安定な状況である。
	□	通信業(総務担当)	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の影響により、社外イベント等も自粛が継続されるものが多く、前月までと大きな変化はなかった。
	□	広告代理店(経営者)	受注量や販売量の動き	・まん延防止等重点措置が当初の期限から延長されたため、年度末の販促活動が中止や規模縮小になったものもあるが、全体的な売上の状況は変わらない。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・取引先の中には売上が増加傾向の企業もあるが、全体としては大きな変化はない。
	▲	鉄鋼業(総務部長)	受注量や販売量の動き	・依然として若年層の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う休校や休園、同居家族の感染等により従業員の自宅待機者が増加し、稼働人員が減少傾向にある。

	▲	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・本来であれば年度末は取扱物量が増加する時期であるが、まん延防止等重点措置が解除され行動制限が緩和されたにもかかわらず、依然として新型コロナウイルス発生前の実績を大きく下回る状態が続いている。また、ウクライナ問題等の国際情勢を背景に燃料油価格が高騰しており、同業者の間では経費増となった分を運賃に転嫁しようとする値上げの動きが徐々に活発化しつつある。
	▲	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・国内向けの出荷数量は依然として低調に推移している。海外向けの出荷については、ウクライナ情勢によりロシア向けの輸出をストップする会社も出てきており、出荷量が減少する見通しである。
	×	化学工業（所長）	それ以外	・原油やナフサを取り巻く環境が著しく悪化している。
雇用 関連	◎	—	—	—
(四国)	○	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・派遣だけでなく、正社員としての雇用形態を求めて就職活動をする人が増加している。
	○	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスの感染状況はいまだに高止まり傾向にあるが、イベント催事の規制は徐々に緩和され、集客状況も徐々に戻りつつある。公共施設や公共交通機関は春休み期間中ということで家族連れでの利用者が増加している。
	○	職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月と比較して増加している。特に製造業の求人数が増加傾向にあるが、中でも機械器具製造業が持ち直している。
	○	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・前年同時期と比較して、ほとんどの職種で求人数が増加している。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響により、求人数についてはしばらく変動がない。
	□	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・新卒採用や中途採用問わず各業種で求人数が増加しているが、景気回復を起因とした増員等の求人ではなく、人手不足を補うための求人数が多く、どちらともいえない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・就職内定率に大きな変化はなく、どちらともいえない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・各種価格高騰による買い控えにより、個人消費が落ち込んでいる。
	×	—	—	—